

【2019年】

2019年5月までの期間では、ワークショップの結果の取りまとめを進め、今後のレシピ集の作成に向けた情報の収集と整理を行った。特に、これまでプロジェクトを実施するなかで得られた知見として、伝統野菜、養蜂に対する潜在的な社会的ニーズが高いということと、消費者、生産者のいずれも、生産、調理に関する知識を国を超えて共有することを希望していることが分かってきた。

2019年11月までの期間では、韓国のレシピ集の作成が進められるなかで課題となっていた中国におけるレシピ集の作成を進めることができた。作成を進めることができた要因としては、中国のカウンターパートとの連携強化を進めることができたことに加えて、現地と日本において新たに連携することが可能な機関、メンバーを把握し、連携を開始できたことが挙げられる。

代表者の香坂は、中国科学院シーサンパンナ熱帯植物園において招待講演を行い、同園の研究員の中村彰宏氏との連携を開始した。また、雲南地域の文化人類学的研究を進める名古屋大学の堀江未央氏（現・岐阜大学所属）をプロジェクトメンバーに迎え、中国の留学生の協力等も得ながら具体的なレシピ集の作成を進めた。情報は現地の料理に関する書籍等から抽出し、各料理の調理法について情報を収集することができた。

